

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 大学の目的

##### (1) 観点ごとの分析

**観点 1-1-①：** 大学の目的（学部，学科又は課程の目的を含む。）が，明確に定められ，その目的が，学校教育法第 83 条に規定された，大学一般に求められる目的から外れるものでないか。

##### 【観点到に係る状況】

本学は，大分大学憲章で，本学の目的を「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて，豊かな創造性，社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに，地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し，人類福祉の向上と文化の創造に寄与すること」と定めるとともに，「教育」，「研究」，「社会貢献」及び「運営方針」の 4 分野ごとの目標を明確にしている。（資料 1-1-①-A1，B1）この目標を踏まえ，各学部においても，その特色に応じた教育目的を定めている。（資料 1-1-①-A2，資料 1-1-①-B2～B5）

さらに，これらの目的・目標の下で，平成 27 年度までに取り組むべきビジョンとして，「大分大学の道標」を策定している。（資料 1-1-①-A3）

##### 資料 1-1-①-A1 大分大学憲章

##### 前文

世界の情勢がめまぐるしく変化する現在，大学の在り方も大きな転換が求められている。

ここ大分の地は，かつて異文化交流の国際的な先進地であった。大分大学は，この進取の伝統を受け継ぎ更なる飛躍を期して，ここに基本理念と目標を定め，われらに期待されている社会的使命を果そうと決意した。

多様な経歴をもつ学生の教育においては，高い倫理観と豊かな創造力・実践力を育成するため，個々のニーズに対応して効果的に機能する体制の確立が緊要な課題となっている。一方，大学で行う先端的な研究には，学問研究の自由の保障のもとに，組織として基礎と応用の均衡を図りつつ，「知」の再構築に向けて，その成果を発信することが求められる。また，地域社会・国際社会との双方向的コミュニケーションに基づく貢献と交流の積極的な推進も重要な課題となっている。これら諸課題の解決のためには，大学の組織と運営について，主体的な点検・評価を踏まえながら不断の改革を実行することが不可欠である。

大分大学は，ここに新しい組織・体制のもとで新たな出発をする。われらは，大分大学の充実と発展のために邁進し，人間味あふれる大学づくりに努めることが責務であると信ずる。

##### 大分大学の基本理念

大分大学は，人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて，豊かな創造性，社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに，地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し，人類福祉の向上と文化の創造に寄与する。

##### 教育の目標

1. 大分大学は，学生の立場にたった教育体制のもとで，広い視野と深い教養を備え，豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成する。
2. 大分大学は，ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し，創造性と応用力に富んだ人材を育成する。
3. 大分大学は，高い学習意欲を持ち，たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ，広く世界で活躍できる人材を育成する。

**研究の目標**

1. 大分大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、知的成果を大分の地から世界へ発信する。
2. 大分大学は、広い分野の学際的な研究課題に対して、総合大学の特性を活かし、学の融合による新たな学問分野の創造を目指す。

**社会貢献の目標**

1. 大分大学は、地域拠点大学として、教育・研究・医療の成果を地域社会に還元することにより、地域社会との連携と共存を図り、その発展に貢献する。
2. 大分大学は、国際的な拠点大学として、広く世界に目を向けて交流を進める。特に、アジア諸国との特徴ある国際交流を推進する。

**運営の方針**

1. 大分大学は、自主的・自律的な教育研究と管理運営のもと、活動内容の継続的な質的向上を図るとともに、情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果たすよう努める。
2. 大分大学は、社会と時代の変化に対応し得る、機能性に優れた柔軟な運営体制の構築を目指す。

## 資料 1-1-①-A2 各学部の教育の目的等

**<教育福祉科学部>**

教育・人間福祉を基盤とする教育・研究を推進し、地域の教育・社会・文化のたいなる発展に寄与したいと考えています。そのため、人間福祉の視点に立って、教育の現場で澁刺と活躍し得る資質の高い教員の養成や、使命感にあふれた福祉の分野に携わる人材の養成及び成熟した社会にあって専門的知識を創造的・総合的に活用できる人材の養成を行い、豊かな共生社会の実現に貢献することを目指しています。（教育福祉科学部アドミッション・ポリシー）

**<経済学部>**

本学部は、経済学、経営学を中心にしながら社会科学の諸分野について、基礎から応用・実践に至るまで幅広く学習することを通じて、経済社会の動向を的確に把握し、社会の中核を支える人材を養成することを目指しています。こうした人たちが今日の高度化・複雑化する社会に柔軟に対応しながら、各方面で真価を発揮するためには、基礎的能力が不可欠です。こうした能力を身に付けることは、社会や経済の変化に対する適応力を高めるとともに、創造性を発揮する上での基盤になると考えています。また、実社会で活躍する上で求められる実践力を身に付けるためにも基礎的能力が重要です。そこで、学生の基礎的能力を高めることを本学部の教育目的とします。（経済学部アドミッション・ポリシー）

**<医学部>**

本学部は、医と看護に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学並びに看護学の知識と技術、そしてこれらを支える高い道德観と豊かな教養を備えた医師あるいは看護師、さらには医学、看護学研究者を育成し、これらの学問の進歩、国民の健康増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に貢献することを使命としています。（医学部アドミッション・ポリシー）

**<工学部>**

世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、個性豊かで創造性あふれる人材を育成することが教育理念です。また、自らの課題を探究する意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たす基礎、専門分野の学力に裏打ちされた、社会性並びに国際性豊かな人材を養成することが教育目標です。（工学部アドミッション・ポリシー）

## 資料 1-1-①-A3 大分大学の道標（抜粋）

**はじめに**

本学は、これまで、法人化に際して掲げた大分大学憲章が示す目標を達成すべく、教育・研究・医療・社会連携という基本的任務に取り組み、成果を挙げてきました。しかし社会は激しく動いており、本学に対する期待も大きく変化しています。私たちはこれまでの到達レベルに安住することなく、特色ある大学づくりを通して、総合大学としての機能の高度化や、地域における「知の拠点」としての役割を果たしつつ、有為な人材の育成と教育研究の発展に努めます。ここに示す「大分大学の道標（みちしるべ）」は、これから本学が取り組むべき課題と方針を、分野ごとにまとめたものです。この道標の実施期間は、概ね第2期中期目標期間の最終年である、2015年までを想定しています。

**知識基盤社会に求められる人材を育成する**

21世紀は「知識基盤社会」と言われています。知識基盤社会とは、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として、新しい知識・情報や技術が、その重要性を増す社会です。この社会では、基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性が不可欠です。高等教育機関である本学は、この知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成を目指します。大学の基本的任務である教育はもとより、研究、社会連携、医療のいずれの分野においても、それが優れた人材の育成に貢献するものか否かという視点から、企画実行の判断を行います。また、時代や社会の要請、及び学問の発展に対応した人材育成を行うために、既存組織の改組等を含む教育研究組織の再構築を目指します。

**特色ある大学づくりを目指す**

今後、大学には個性化と高度化が求められます。本学の組織構成、得意とする分野や規模などを考えると、大学院レベルの教育で目指す「高度の専門職業人養成」、学部レベルの教育による「幅広い職業人養成」、そして全学的な教育、研究、医療活動がその役割を担う「社会への貢献」において、本学の資源が特に活かせるものと考えられます。また、本学が「ナショナルセンター」に相応しい実績を有する分野については、さらに「世界的な教育研究拠点」を目指します。特色ある人材は、特色ある大学から創出されます。

**地域社会とともに発展する**

本学は大分県に立地する唯一の国立大学であり、この地域における「知の拠点」として機能するとともに、地域の活性化に貢献する「リージョナルセンター」としての役割を果たします。本学は教育、研究、医療における国際的な先進性を追求しながら、地域と大学との間の双方向的な情報交換に基づいて、地域社会との多様な連携を推進します。このような努力によって、本学の新たな発展を実現します。

**発展を支えるマネジメント体制と安定した経営基盤を構築する**

法人化以降、本学は運営体制の改革を進めるとともに、安定した経営基盤の構築に努めてきました。これは、いわば法人化を完成させるための準備作業でした。2015年までの次期中期目標期間においては、一層の改革に努めるとともに、弾力的で効率的な大学経営の実現を目指し、スリムで質の高い管理運営組織を整備します。

**【別添資料】**

- 資料 1-1-①-B1 大分大学憲章  
<http://www.oita-u.ac.jp/category/aim.html>
- 資料 1-1-①-B2 教育福祉科学部のアドミッション・ポリシー  
<http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-kyoiku.html>
- 資料 1-1-①-B3 経済学部のアドミッション・ポリシー  
<http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-keizai.html>
- 資料 1-1-①-B4 医学部のアドミッション・ポリシー  
<http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-igaku.html>

資料 1-1-①-B5 工学部のアドミッション・ポリシー

<http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-kogaku.html>

**【分析結果とその根拠理由】**

教育研究活動の目的は、「大分大学憲章」に基本方針や達成しようとする成果等を明示し、更に、これらの目的・目標の下で、平成 27 年度までに取り組むべきビジョンとして「大分大学の道標」を策定しており、本観点を十分に満たしていると判断する。

**観点 1-1-②：** 大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第 99 条に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものでないか。

**【観点到係る状況】**

本学の目的・目標を踏まえ、大学院及び課程の目的を、大学院学則に、「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、高度の専門性を要する職業能力、自立した研究活動能力を育成」と定めている。（資料 1-1-②-A1, B1）この目的を踏まえ、各研究科はその特性に応じて教育研究活動の具体的な基本理念や教育の目標を掲げている。（資料 1-1-②-A2, B2～B8）

資料 1-1-②-A1 大学院の目的・基本理念

（目的）

第 2 条 本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

（課程の目的）

第 7 条 修士課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

2 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

（大学院学則）

資料 1-1-②-A2 各研究科の基本的目的

**教育学研究科（修士）**

**【基本理念】**

学部教育で習得した学校教育の基本的知識及び学校教育分野における教師としての経験や知見を土台に更に学校教育における理論と実践に関する学術分野の総合的な教育・研究を行うことにより、高い研究能力と教育的指導力を備え、実践力豊かな人材を養成するとともに、地域教育の発展に寄与することです。

**【教育の目標】**

高度な研究能力と教育的指導力を備えた人材を育成するため、学校教育に関する理論的、実践的研究をとおして、現代社会がかかえる教育の諸問題に対処しうる判断力と問題解決能力の涵養を図っていきます。

**1. 学校教育専攻・学校教育コース**

学校教育の幅広い分野に関する専門的な教育ならびに各分野の諸問題についての理論的研究と現実の教育問題を解決するための実践的研究を行っていきます。

**2. 学校教育専攻・臨床心理コース**

臨床心理学に関する専門的な教育や実習をとおして、様々な臨床心理学的課題やこころへの援助についての教育・研究を行っていきます。

**3. 教科教育専攻**

教科教育ならびにその基礎となる諸科学に関する理論と実践について専門的、系統的な教育・研究を行っていきます。

（平成 21 年度教育学研究科（修士）募集要項）

**経済学研究科（博士前期）**

**【基本理念】**

現代の経済社会は、情報技術の進歩などにより急速なグローバル化が進展する一方で、私た

ちが生活するそれぞれの地域においても、その資源の活用や将来へ向けた戦略の重要性が高まっています。そのため、グローバルからナショナル、さらにはローカルに至る様々なスケールにおける経済社会の諸問題を的確に理解し、分析し、解決する能力を有した高度で専門的な人材の必要性がより一層強まっています。

博士前期課程は、こうした経済社会の変化を受けて、鋭い分析能力と専門的な知識を有し多様な経済社会のリーダーとなりうる高度職業人を養成し、送り出すことを目的とします。

#### 【教育・研究の目標】

旧来の枠組みにとらわれない高度な理論的・学際的アプローチと実務に直結する応用的・政策的アプローチを通じて、現代経済社会の諸問題に対処しうる判断力と問題解決能力の涵養を図っていきます。

##### (経済社会政策専攻)

経済政策や社会政策の理論と歴史に関する総合的アプローチを基礎とする教育・研究を行います。

##### (地域経営政策専攻)

地域経済分析や企業経営に必要な様々な情報に関する実践的アプローチを基礎とする教育・研究を行います。

(平成 21 年度経済学研究科 (博士前期) 募集要項)

#### 経済学研究科 (博士後期)

##### 【理念】

グローバル化の下で、新たな経営課題に対応したビジネス・モデルを構築するためには、企業をとりまく環境を分析し、グローバルな視点に立つと同時に地域に即したマネジメントに関する高い専門能力が重要になっています。一方、地域社会においては、今日の経済社会の変化に対応した地域づくり・地域政策を提案できる高い能力を持つ専門家が求められています。とくに地方圏においては、グローバル化の下での経済構造の変化に対応した地域経済の的確な方向性を示すことのできる人材の養成が重要です。

博士後期課程は、マネジメント、地域政策、経済社会環境の諸分野に関する高度な研究にもとづいて、地域経済の発展、地域づくりを担う、高い創造性と専門性を備えた職業人の育成をめざします。

##### 【教育・研究の目標】

博士後期課程では、上記の理念をふまえて、①マネジメント活動を理論的・実証的に探究し、経済社会のグローバル化に対応したビジネス・モデルについて考える「マネジメント」、②地域の実態をふまえて地域社会のあり方、地域づくり・地域政策を論じる「地域政策」、③経済社会環境に関する理論的・実践的な分析を行う「経済社会環境分析」という3つの領域について、新たな視点に立って高度な教育研究を行います。

また、博士後期課程の理念を効果的に達成することができるように、研究の土台となる理論的基礎の修得に導くと同時に、現代の諸課題について高度な分析能力と問題解決能力を涵養します。さらに、幅広い視野に立って体系的に学習し、研究が進められるようにコースワークを重視するとともに、複数の指導教員による研究指導を行います。

(平成 21 年度経済学研究科 (博士後期) 募集要項)

#### 医学系研究科

##### 【基本理念】

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理感と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学部及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

##### 【教育の目標】

(修士課程)

優れた指導力を持った教育・研究者，医療人及び技術者を育成するため，理論的・実践的教育を通じて，医学・医療の諸問題に対応できる判断力と問題解決能力の涵養を図ります。

#### (医科学専攻)

体系的・集中的な教育により，医学以外の専門知識を備えた人材に，それぞれの専門分野と融合した新たな医学に関わる教育・研究分野や技術を創出できる研究者の養成を目指します。

#### (看護学専攻)

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え，看護の質向上を実現できる実践力を養い，看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を目指します。

#### (博士課程)

国際的に活躍できる自立した教育・研究者及び診療能力の高い臨床医の育成を主眼とし，そのための能力と基礎となる豊かな学識及び人間性を持った人材の育成を目指します。

(平成 21 年度医学系研究科 (博士) 募集要項)

#### 工学研究科 (博士前期)

##### 【基本理念】

質の高い特色ある教育と研究を通じて，世界に通用する科学技術を創造し，もって地域に貢献するとともに，豊かな創造性，社会性及び人間性を備えた人材を育成することです。

##### 【教育・研究の目標】

学生の立場にたった教育体制のもとで，自らの課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し，国際基準を満たすゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を備えるとともに，豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成することです。

(平成 21 年度工学研究科 (博士前期) 募集要項)

#### 工学研究科 (博士後期)

##### 【基本理念】

質の高い特色ある教育と研究を通じて，世界に通用する科学技術を創造し，もって地域に貢献するとともに，豊かな創造性，社会性及び人間性を備えた人材を育成することを理念とします。

##### 【教育・研究の目標】

本学の教育・研究の目標を踏まえ，各専攻分野における高度でかつ最先端の知識を身につけ，独立して研究を展開し，国際的に活躍できる指導的技術者・研究者を育成することを目標とします。

(平成 21 年度工学研究科 (博士後期) 募集要項)

#### 福祉社会科学研究科 (修士)

##### 【基本理念】

福祉社会の構築は人類恒久の課題です。そのために，グローバルからローカルまで，あらゆる段階で起きる社会的・経済的条件を的確に捉え，充実した福祉社会の構築に貢献できる高度で専門的な能力をもつ人材がますます必要になっています。

本研究科は，そうした社会的要請に応えるために，学際的かつ多元的なアプローチによる福祉社会科学の素養を身につけた高度専門職業人の養成に果敢に取り組みます。

##### 【教育の目標】

1. 学生の立場に立った教育体制のもとで，福祉を総合的・多角的に捉え，豊かな人間性と高い倫理観を有し，高度専門職業人として社会的責任を果たす人材を育成します。
2. 社会福祉学・法学・社会学・経済学・経営学・教育学などの高度な社会科学の知識を修得し，高度な実践として，問題発見・解決・抑止のできる創造的で応用力豊かな高度職

業人の養成をします。

3. 高い研究意欲, たゆまぬ探求心をもち, 総合的な判断力と実践力を身につけ専門職業人として高度な技能を有し, 社会, 広くは地域・国際社会で活躍できる高度職業人の養成をします。

**(福祉社会政策コース)**

主として社会科学の分野から福祉社会に関する理論的・政策的アプローチを基礎とする教育・研究を行っていきます。

**(人間福祉社会コース)**

主として社会福祉学やソーシャルワークに関する理論的・実践的アプローチを基礎とする教育・研究を行っていきます。

(平成 21 年度福祉社会科学研究科 (修士) 募集要項)

**【別添資料】**

- 資料 1-1-②-B1 大学院学則  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001100.pdf>
- 資料 1-1-②-B2 平成 21 年度教育学研究科 (修士) 募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001836.pdf>
- 資料 1-1-②-B3 平成 21 年度経済学研究科 (博士前期) 募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001683.pdf>
- 資料 1-1-②-B4 平成 21 年度経済学研究科 (博士後期) 募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000002710.pdf>
- 資料 1-1-②-B5 平成 21 年度医学系研究科 (修士) 募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001851.pdf>
- 資料 1-1-②-B6 平成 21 年度工学研究科 (博士前期) 募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001598.pdf>
- 資料 1-1-②-B7 平成 21 年度工学研究科 (博士後期) 募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001904.pdf>
- 資料 1-1-②-B8 平成 21 年度福祉社会科学研究科募集要項  
<http://www.oita-u.ac.jp/000001910.pdf>

**【分析結果とその根拠理由】**

大学院の目的を「大学院学則」に明確に定めており, 各研究科はその目的を踏まえ, その特性に応じて教育研究活動の具体的な基本理念や教育の目標を掲げていることから, 本観点を十分に満たしていると判断する。

**観点 1-2-①： 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。**

**【観点に係る状況】**

本学の目的・目標について、学生に対しては「学生生活案内」，「教養科目ガイドブック」を配付の上，入学時ガイダンスで説明している。ガイダンス時のアンケートの結果では，多くの新入生（約 82%）が本学の目的を理解していた。（資料 1-2-①-B1, B2）

教職員に対しては，任命時に「大学概要」を配付するし，新採用職員研修で説明している。（資料 1-2-①-B3, B4）

社会に対しては，全国の国立大学法人，大分県及び県内全市町村，教育委員会，県内全高等学校等の機関に対して，「各学部学生募集要項」，「各学部概要」等を送付する他，多くの冊子を県内の高等学校や金融機関に設置したインフォメーションコーナー等に配置するとともに，オープンキャンパスなど大学行事への参加者にも広く配布し周知している。（資料 1-2-①-B5）

また，本学のホームページに，「学則」，「大学院学則」，「大分大学憲章」及び「各学部アドミッション・ポリシー」等を掲載し，公開している。（資料 1-2-①-A1）

さらに，英語版のホームページにも大分大学憲章を掲載し，国外へも情報を発信している。（資料 1-2-①-A1）

資料 1-2-①-A1 ホームページで公開している本学及び各学部・研究科の目的

ホームページ	掲載項目	URL
学則	大学の目的	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001099.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001099.pdf</a>
大学院学則	大学院の目的	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001100.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001100.pdf</a>
大分大学憲章	大分大学の基本理念，教育・研究・社会貢献の目標，運営の方針	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/category/aim.html">http://www.oita-u.ac.jp/category/aim.html</a> (英語) <a href="http://www.oita-u.ac.jp/english/charter.html">http://www.oita-u.ac.jp/english/charter.html</a>
大学概要 (資料編)	大分大学憲章	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/webpamphlet/Gaiyo/gaiyo.html">http://www.oita-u.ac.jp/webpamphlet/Gaiyo/gaiyo.html</a>
各学部アドミッション・ポリシー	基本理念・教育の目標等 ◆教育福祉科学部 ◆経済学部 ◆医学部 ◆工学部	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-kyoiku.html">http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-kyoiku.html</a> <a href="http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-keizai.html">http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-keizai.html</a> <a href="http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-igaku.html">http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-igaku.html</a> <a href="http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-kogaku.html">http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/adpolicy/ad-kogaku.html</a>
各研究科募集要項	基本理念・教育の目標等 ◆教育学研究科	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001836.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001836.pdf</a>
	◆経済学研究科 (基本理念) (目標)	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001683.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001683.pdf</a> <a href="http://www.oita-u.ac.jp/000002710.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000002710.pdf</a>
	◆医学系研究科	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001851.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001851.pdf</a>
	◆工学研究科 (基本理念) (教育の目標)	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001598.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001598.pdf</a> <a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001904.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001904.pdf</a>
	◆福祉社会科学研究科	<a href="http://www.oita-u.ac.jp/000001910.pdf">http://www.oita-u.ac.jp/000001910.pdf</a>

**【別添資料】**

- 資料 1-2-①-B1 学生生活案内（平成 20 年度）P3
- 資料 1-2-①-B2 教養科目ガイドブック（平成 20 年度）P1
- 資料 1-2-①-B3 平成 20 年度大分大学概要（資料編）  
<http://www.oita-u.ac.jp/webpamphlet/Gaiyo/gaiyo.html#1>
- 資料 1-2-①-B4 新採用職員研修テキスト
- 資料 1-2-①-B5 インフォメーションコーナー設置状況

**【分析結果とその根拠理由】**

本学の目的は、冊子やホームページにより広く公表し、さらに、オープンキャンパスなど大学行事への参加者にも周知を図っている。

また、新入生に対するガイダンスでも説明しており、アンケート結果では多くの学生が本学の目的を理解していた。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- 「大分大学憲章」及び「学則」に定める教育研究活動の目的を実現するため、平成 27 年度までの次期中期目標期間において取り組むビジョンとして、「大分大学の道標」を策定している。(観点 1-1-①)

### 【改善を要する点】

- 特になし。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

- 本学の目的を、大分大学憲章で明確に定めている。また、この目標を踏まえ、各学部もその特色に応じた教育目的を定めている。さらに、平成 27 年度までに取り組むビジョンとして「大分大学の道標」を策定している。(観点 1-1-①)
- 大学院の目的を大学院学則で明確に定めており、この目的を踏まえ、各研究科もその特性に応じた基本理念や教育の具体的な目標を定めている。(観点 1-1-②)
- 本学の目的・目標は、各種冊子やホームページに記載し、広く公表している。ホームページでは英文の大分大学憲章を掲載し、国外へも周知している。(観点 1-2-①)
- 教職員・学生には、冊子等を配布し、周知に努めている。新入生に対するガイダンスでも説明しており、アンケート結果では、多くの新入生が本学の目的を理解していた。(観点 1-2-①)
- 社会に対しては、目的等を記載した各学部概要等や各学部学生募集要項を大分県内の高等学校や市町村教育委員会等に配布するとともに、オープンキャンパスや説明会等でも積極的に周知を図っている。(観点 1-2-①)